

会話のようになじむ バイオリンとピアノの演奏会



息の合った演奏を披露する澤さんと蓼沼さん
(19日、緑風舎で)

デュオ35年の澤さん、蓼沼さん

ロベート・ペインは耳が全く聞こえなくなる前に、自分の内なる音を聞いて、音を紡ぐように作曲した。ピアノとバイオリンが会話し融和して、一緒に音楽をつくり上げている」と紹介。まさに優しく会話するような演奏で会場を魅了した。

アンコールでは、東日本大震災の犠牲者に祈りを込め、グノーの「アヴェマリア」を演奏。訪れた同市狐島の加治木純子さん(63)は、「大変素晴らしいこれがベートーベンのソナタ第10番についてナタ第10番についてナタ、モーツアルトのソナタなど。」のソナタなどを演奏。澤さんは、「このこと話していた。

和歌山市出身の世界的バイオリニスト澤和樹さんとピアニスト蓼沼恵美子さんのデュオリサイタルが18、19の両日、同市野崎の緑風舎音楽ホールで開かれた。

デュオを組んで35年という2人が、息の合った演奏を披露。2日間で160人が聴き入った。

澤さんは、「ピアノとバイオリンが対等の関係の名曲はいっぱいあります。私はそういう二重奏